

第2学年 国語科学習指導案

日 時 平成16年度 10月29日 5校時
児 童 男11名 女11名 計22名
授業者 菊池 尚子
場 所 1F 第2学年教室

- 1 単元名 「話し方をくふうして はっぴょうしよう」
教材名 「あったらいいな、こんなもの」 光村図書出版2年上

2 単元について

(1) 教材について

「あったらいいな、こんなもの」は、話し方の工夫や聞くことの大切さを学ばせる教材である。「話すこと・聞くこと」の学習は、ほかに小教材が二つあるが、単元としてはここだけである。この学年の中心的な「話すこと・聞くこと」の学習を行うことになる。

教材の冒頭には、「ドラえもん」のキャラクターが登場していて、児童の興味を引きやすいのが特徴である。また、「こんなものがあったらいいな、便利だな」という話題も児童にとっては、話し合いやすい内容となっている。

自由で楽しい雰囲気の中で、「話すこと・聞くこと」の基本的な姿勢に焦点を当てた学習を進めることができる教材である。

(2) 児童の実態

児童は、2年上「ともこさんは どこかな」で、大切なことを選んで順序よく話すことと、人物の特徴を落とさないように聞くことを学習している。

日常的には朝の会でスピーチに取り組んでいる。話すことに苦手意識を持っている児童が多いので、スピーチ原稿をもとにした発表ではあるが、少しずつ自信が出てきた児童もいるようで堂々と発表ができるようになってきている。また、国語以外の授業の際にも、自分の考えを人前で話す機会を意図的に設け、話すことへの意欲付けを図っている。

これらの学習や活動を通して、児童は大切なことを落とさずに順序よく話そうと意識したり、友達の話に注意して聞いたりできるようになってきている。

(3) 指導にあたって

本教材の指導にあたっては、「ドラえもん」のキャラクターの影響が強すぎて、児童の発想が「ドラえもん」に出てくるものに限られてしまうことも考えられる。あくまでも自分と、ペアになる友達との創意工夫から、楽しい発表会を目指したいと思う。

学習活動は、大きく四つにわけて考える。第一次では、あったらいいなと思うものを想像し、本単元の見通しを持つ活動をする。第二次では、二人一組のペアになりどんなものがあったらいいかを相談し、発表の内容を考える。第三次では、学級での発表会を前に2ペアを1グループとしてグループごとに発表練習をする。第四次では、学級全体で「はつめいひん発表会」を開き、友達の発表を受けて自分がいいと思った物をカードに書いて見合う活動をする。

発表会をするにあたっては、「お話名人になるには・・・」「聞き方名人になるには・・・」を児童に考えさせたりする活動も取り入れていきたいと思う。

3 研究テーマとの関連

本実践では、相互交流するために対話（話し合い）する場を多く設定することと、話し方のモデル提示をすることを考えている。

はじめに、二次で話し手として聞き手に分かりやすく伝えるために、ペアで話す順序を考える場を設ける。その際に、話す事柄をカード一枚に一つの事柄を書かせて、話す順番にカードを自由に並び替えさせる学習をさせる。この活動ではペアとして組んでいる相手に自分の考えを分かってもらうため、根拠をもった発言や関連した発言を心がけるようになると思う。

つぎに、発表練習前や発表練習中に「どういう話し方がよいか」「どのような聞き方がよいか」を話し合う場を設けたい。聞き手がどのようなアドバイスができるかがとても重要になってくる。聞き手には発表会後に感想を述べるという意識を十分にもたせて、練習や本番に臨むよう事前指導をきちんと行いたい。そして、本単元で学んだことが、今後の学習にも生かせることを評価などを通して感じさせたい。

また、発表会の際には、どのようにペアで話せば聞き手に伝わりやすいかをモデル提示したいと考える。初めに提示したモデルと発表会直前に提示するモデルでは、子どもたちの活動によって多少変化が見られると考える。

上記の二点を行うことにより、児童は相手に内容を分かってもらうため順序や内容を考えた話し方を心がけるようになると思う。また、話し手の立場や意図などに注意した聞き方や、相手の心情を思いやる姿勢が育つと思う。

本単元を通して、次の五つの言語活動を明確にしていく。

相手意識	学級の友達に対して
目的意識	ペアで考えた発明品を分かりやすく伝えるために
場面状況意識	学級での発表会の中で
方法意識	ペアで話し方を考え、練習することで
評価意識	自己評価や相互評価をする場を設ける

4 単元の目標及び評価規準

話し方を工夫して、自分たちが考えたことを発表する。

観 点		評 価 規 準	評価場面〔分析方法〕
関心・意欲・態度		<ul style="list-style-type: none"> 「こんなものがあつたらいいな、便利だな」と思うものについて考え、友達と相談しようとする。それを学級の友達に分かりやすく伝えたり、聞いたりしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察〔行動分析〕 振り返りカード〔記録分析〕
能 力	話す・聞く	<ul style="list-style-type: none"> どんなものがあつたらいいか、ペアになった人と話し合っ て決める。 「あつたらいいな」と思うものについて、それがどんなものか理由は何かなど、話す順序を考えながら聞き手に分かるように話す。 発表者が「あつたらいいな」と考えているものの名前や理由を落とさずに聞き、分からないことは質問する。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察〔発言分析〕 ワークシート〔記録分析〕 振り返りカード〔記録分析〕
	書 く	<ul style="list-style-type: none"> 「あつたらいいな」と思うものについて考え、ワークシートに書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート〔記録分析〕
言 語 事 項		<ul style="list-style-type: none"> 「あつたらいいな」と思う物の名前や理由がよく伝わるように、はっきり話す。 丁寧な言葉遣いで発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察〔発言分析〕

5 単元の指導計画と評価規準

次	時	指導形態	学習計画	評価規準	具体的評価規準		努力を要すると判断された児童への具体的な手立て	研究テーマとの関連
					A(十分満足)	B(概ね満足)		
1	1	一斉	・「ドラえもん」の道具の中で自分が欲しいと思う道具をあげる。	・自分の私生活に関わって欲しいなと思う道具を考えている。 (関・意・態)	根拠を持って自分が欲しいと思う物を書いている。	自分が欲しいと思う物を書いている。	ドラえもんの道具の挿絵などを見せながら、考えさせる。 生活をする上で困ったことなどを想起させ、そこから欲しい物を考えさせる。 発表会まで自分が何を頑張りたいたのか考えさせ、目あてを持たせる。	導入の工夫
	2		・観点をもとに「あったらいいな、便利だな」と思う物をたくさん考える。	・こんなものがあつたら、便利でいいなと思う物を考えている。 (関・意・態)	あったらいいなと思う物を理由を付けて書いている。	あったらいいなと思う物を書いている。		
	3		・発表会をするまでの学習の流れを知り、学習の目あてを持つ。	・教科書を読んで活動の流れを把握し、自分の目あてを考えている。 (関・意・態)	自分の苦手なことに目を向けて、自分の目あてを考えている。	自分の目あてを考えている。		
2	4	ペア	・ペアになって、どんなものがあつたらいいか相談する。	・自分のアイデアを出し合い、お互いのよいところを認め合いながら発明品を決めようとしている。(話・聞)	相手のアイデアのよい点を見つけつつ、自分のアイデアも話しペアでお勧めの発明品を決める。	自分のアイデアを話し、ペアでおすすめの発明品を一つ決める。	相手の意見に賛同し合いながら、相手の考えた物にプラスの意見を付けたせるよう一緒に考える。 提示されたモデルに従ってカードを並び替えさせる。	モデル提示 発表カード
	5		・二人が話す内容・順序を決めてカードにまとめる。	・話す内容や順序をペアを相談しながらまとめようとしている。(話・聞)	話す内容や発表順序を話し合っている。さらに、ペア発表の仕方についても考えている。	話す内容や発表順序を話し合っている。		
3	8	ペア	・話す内容を分担し、ペアで練習する。	・分かりやすい発表にするために「お話名人になるには…」どうしたらよいかを話している。(話・聞)	お話名人になるためのポイントをおさえながら、発表練習している。相手にアドバイスしている。	お話名人になるためのポイントをおさえながら、発表練習をしている。	ペアの友だちと同時に話す練習をさせる。	練習の場の設定 様々な言語事項の指導 相互評価
	9		・2～3ペアが集まり、交代しながら発表練習をする。	・お互いによりよい発表をするために、アドバイスしようとしている。(話・聞)	相手に伝わる話し方になっているか聞き、改善した方がよい点をアドバイスしている。	相手に伝わる話し方になっているか、聞いている。		
	10	グループ						

4	11	一 斉	・発表会の準備をする。	・発表会の係分担について話し合ったり、「聞き方名人になるには…」どうしたらよいかを話している。 (話・聞)	係分担に関して意見を出している。また聞き方名人になるためのポイントをいくつか考え話している。	聞き方名人になるためのポイントをいくつか考え話している。	板書で確認しながら、学習シートにポイントを書き込ませる。	
	12 本時	一 斉	・発表会を開く。	・順序を考えながら、大事なことを落とさずに、発明品の発表を話したり聞いたりしている。 (話・聞)	内容・順序に加えて、相手が聞きやすい話し方をしている。内容・順序・話し方に関連したアドバイスをしている。	内容・順序を考えて発表している。分からないことを質問したり、発表者のよいことを話している。	発表原稿をもとに読ませる。チェックポイントに気を付けさせながら聞かせる。	モデル提示 相互評価
	13 14	一 斉	・友達の発表を聞き、よかった点をカードにまとめ発表する。	・他のグループの発表のよいところを認めようとしている。 (関・意・態)	他のグループのよい点を書き、そのことを周りに発信することができる。	他のグループのよい点を書いている。	自分のペアの反省をさせる。	相互評価

6 本時の指導

(1) 目標

順序を考えながら大事なことを落とさずに発明品の発表をしたり，聞くことができる。

(2) 具体的評価規準

十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要する児童への支援
内容・順序に加えて，相手が聞きやすい話し方をしている。友達に，内容・順序・話し方に関連したアドバイスをしている。	内容・順序を考えて発表している。分からないことを質問したり，発表者のよいところを話している。	発表原稿をもとに読ませる。「お話・聞き方名人になるために」のポイントを常に意識させるように机間巡視の際に声をかける。

(3) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点 評価
とらえる 5分	1 発音・発声練習をする。 「学校ガイド」 2 学習課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">はつめいひんのひみつがくわしく分かる はっぴょう会にしよう。</div>	姿勢・口形・声の大きさに気をつけて練習させる。 「くわしく分かる」という言葉に着目させながら，活動につなげる。
見とおす 5分	3 発表の仕方と聞き方を確認する。 ・ 発表のためのモデル提示をする。提示された後に，自分たちの発表の仕方を確認する。 ・ 前時で話し合った「聞き方名人になるには」どうしたよいかを板書で振り返る。	上手なペアを1組モデルとして提示し，意欲付けさせる。「お話名人になるには・・・」どのような発表をすればよいかを確認させる。 どんな聞き方をしたらよいか押さえさせる。
ふかめる 25分	4 学級全体で「発明品発表会」を開く。 ・ 1組約1分の発表×10組 お話名人 順序よく 名前，使い方を教えよう 3の声の大きさで，はっきりと 聞き方名人 うなずいたり，拍手したりする 話す人を見る と中でしゃべらない	内容・順序を考えて発表することができたか。分からないことを質問したり，発表者のよいところを話すことができたか。 3～4グループの発表が終わるごとに，感想を発表させる。努力を要する児童へは，事前に感想発表の仕方をモデル提示し指導しておく。
まとめる 10分	5 学習のまとめをする。 ・ 自己評価カードで自分のペア発表や話の聞き方を振り返る。 ・ カードに書いたことを発表し合うことで，友だちのよさを確かめ合う。(2～3名)	友だちのよかったところや頑張ったところに気付いたか。 友だちの発表についても振り返られるように促す。 他のペアのよいところを発表することで，自分たちも真似してみようという意識をもてるようにする。

(4) 板書計画

